

「信州総文祭」開幕迫る

生徒実委 山形村で100日前イベント

信州総文祭の開幕100日前イベントで、駒ヶ根工業高校(駒ヶ根市)の生徒が製作してきたカウントダウンボードの点灯式があった。ボードは8月7日に始まる総文祭までの日数を表示する装置で、大会のPRに役立っている。30日から伊那市荒井のいなっせに設置する。

ボードは高さ約1.5メートル、幅約90センチで、同校ロボット研究製作部の山上佑大さん(3年)と細井和真さん(2年)と(16)を中心に製作した。ストレッチボードに制御基板を組み込み、発光ダイオード(LED)を使用して

駒工生オリジナル

LEDのカウント ダウンボード点灯

日数を表示。内蔵した時計が午前0時になると、自動的に表示が変わるように設定した。

総文祭実行委の依頼で県内の工業高校4校がそれぞれに作り、各地に設置している。100日

きようから
いなっせに

前イベントの点灯式には山上さんと細井さんが出席。無事に点灯したことを確認した2人は「工夫や苦労を重ねてきた。多くの人にってもらい、大会のPRにつながれば」と期待した。(唐澤翔)



カウントダウンボードを製作した駒ヶ根工業高の山上佑大さん(左)と細井和真さん(右)